

2.22

統計数理研究所

講 究 錄

第二卷 第二十二号

昭和22年 3月1日 発行

目 次

論文紹介 9.

田中祐輔: Sequential method of Sampling for  
deciding between two Courses of  
Action A. Wald  
Journal of the American Statistical  
Association (1945, vol 5)-----569

統計数理研究所

文京区 高田老松町 七六

# Sequential method of Sampling for deciding between two Courses of Action

Journal of the American Statistical Association  
A. Wald  
(1945, Vol. 5)

1. 緒論 紹介者 岡本祐輔

可能な場合が二つあり、(之をA, A'と称す)ソノ何れ一方ヲ採ルコトヲ  
対稱ナル母集団ヨリ抽出シテ標本カラ法定シヨリトテ之ヲ問題ニ本論文デ  
ハ取扱フ。

逐次抽出法(sequential method)ノメカニハ次ノ如クナル。

問題ノ性質ニ從カテ一ツ法則ガアタラシカモソノ法則ハ次ノ條件ヲ  
満足スル。

標本ノ母集団ヨリ一ツツ逐次ニ抽出ナルガ、抽出ノ各段ア毎ニ於テ今マ  
抽出シテ標本カラアタラシク法則ニ基テハヨツテ

1° Aナル場合ヲル

2° A'ナル場合ヲル

3° 1°, 2°何レモナリ次ノ結果ニマツタニハ更ニ標本ヲ抽出スル。

トイツタソノ判決何れカ一ツガ定テラレル。

標本抽出ハ 1°, 2°ノ何れカ一方ノ判決ヲ得ルマテ止テラレル。

斯ノ様ニアタラシク法則ヲ標本抽出方式(sampling plan)ト名付  
ケル。

以下本論文=於テハ逐次=抽~~出~~ = 標本ノ用 = 母集団 = 爲 = 逐次 = 獨立ナルニシテ、各標本 = 對應ニシテ抽出ル變數又 = 確率分布ノ型ハ既知ナル、其ツノ平均値 =  $\mu$ 、値カ $\sigma^2$ ニシテ、

### 2. 標本抽出方式 (Operating Characteristic Curve)

標本抽出方式が定メラレテ、ナルニ場ヲ採~~用~~ = 抽~~出~~ = 確率  $S$ 、又  $\mu + A$  ナル母標本ノ列ニ於テハ = 抽出~~ル~~ = 確率  $S$ 、母標本ノ平均値  $\mu$ 、即チ  $S = f(\mu)$  ナル。

コソノグラフ  $(\theta)$ 、表ハシ Operating Characteristic Curveトシテナル (即チ  $OC$  カーブ)。

本論文テハ  $\mu + A$  ナル列ニ於テ  $S = f(\mu)$  ナル點ニ於テ抽出~~ル~~ = 確率  $S$ 、又  $\mu + A$  ナル母標本ノ列ニ於テ  $S = f(\mu)$  ナル點ニ於テ抽出~~ル~~ = 確率  $S$ 、

ナル  $\mu + A$  ナル列ニ於テ  $S = f(\mu)$  ナル點ニ於テ抽出~~ル~~ = 確率  $S$ 、

3. 標本抽出方式要求ル抽出回数、平均値  $OC$  カーブハ抽出方式ノ性質ニ依リテ現ルニシテ、矢張り性質ヲ表現スルニシテソノ方式 = 從カツテ法論ヲ得ルマデ抽出~~ル~~ = 回数、平均値  $\mu$  ナル。

同一抽出方式 = 於テ抽出實驗ヲ繰返ストキ、法論ヲ得ルニ至ルマデ標本抽出回数  $n$  各種々變テテソ。ツヨクハ確率變數ナル。

即チ  $n$  平均値  $\mu$  及 分布函数 = 依リテ定ムル。即チ  $n$  平均値  $\mu$  ナル。

を  $F_0(n)$  と表はす。  $F_0(n)$  (Average sampling number curve) (地方計ASN-0-30) と呼ぶ。

今迄の品質検査方法は、多数の製品を同時に検査する母集団 = 1000個程度、不良率 = 1% 程度の場合に適用される。斯くて合格、不合格の仕切不良率 = 検査済みの不良率となる。

検査方式として次の方法が採用される。

逐次検査方式を採用し、25個目まで不良品が認められれば仕切合格とする。それ以前に不良品が認められれば検査を打ち切り仕切不合格とする。

3個目まで、5個目まで合格となる確率、即ち25個目まで不良品となる確率  $(1-\theta)^{25}$  とする。

7個目まで合格とするときの期待値  $OC$  から  $OC(0) = (1-\theta)^{25}$  とする。

検査回数  $m$  が丁度  $m$  個目まで不良品、 $m$  箇、検査中、 $m-1$  個目まで良品、 $m$  箇目が不良品となる確率が  $(1-\theta)^{m-1}\theta$ 、又丁度25箇目が検査される確率  $(1-\theta)^{24}\theta + (1-\theta)^{25}$  とする。故に  $n$  の式とすれば  $ASN(0-30) E\theta TR = \sum_{n=1}^{24} n\theta(1-\theta)^{n-1} + 25[(1-\theta)^{24}\theta + (1-\theta)^{25}]$  とする。

#### 4. 標本検査方式の選択.

標本抽出方式の選択は決まるとして、その最適な選択を行はねばならない。

今問題の解答法は次の場合の比較がなされることになる。

$\theta < \theta'$  のときは、A なる場合を採用する。

$\theta > \theta'$  のときは、A' なる場合を採用する。

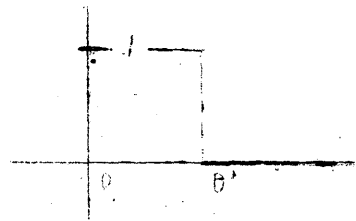
$\theta = \theta'$  のときは、何れでもよい。

したがって、 $\theta$  が  $\theta'$  の外ならば、A なる場合を採用するに値する、又  $\theta$  が  $\theta'$  の内ならば、A' なる場合を採用するに値する。

斯くすれば、 $\theta < \theta'$  に対しては、A なる場合が最適であるから、その標本抽出方式を採用する確率  $= \sum_{\theta < \theta'} L(\theta)$ 、即ち、A なる場合を採用する確率  $\theta > \theta'$  に対しては、 $L(\theta)$  が生ずる確率より大きくなるから、 $\theta > \theta'$  ならば、 $L(\theta)$  が生ずる確率より小さくなる。

従って結論として  $L(\theta)$  のことは

$$L(\theta) = \begin{cases} 1 & (\theta < \theta') \\ 0 & (\theta > \theta') \end{cases}$$



と表わされる。

従って標本抽出方式の  $\sum_{\theta < \theta'} L(\theta)$  が生ずる限り理想曲線に近づく。したがって  $E_n(\theta)$  が最小となるように事が望ましい。この形は理想曲線に近づく  $L(\theta)$  が得られる限り、 $E_n(n)$  は増大する。従ってこの場合の最適和は  $\sum_{\theta < \theta'} L(\theta)$  となる。

実際は取扱った問題の性質から  $\theta \leq \theta'$  ( $\theta < \theta'$ ) なる  $\theta$  に対しては、標本抽出の結果  $\theta$  なる場合を採用して判決(誤った結論)が生ずる。

確率(危険率)が $\alpha$ より大いアツテハナラス、又  $\theta_0 \leq \theta$  ( $\theta_0 > \theta_1$ ) ナル $\theta$ ニ対シテ  
 一ノヲ採ルトイフ誤リヲカス確率が $\beta$ より大いアツテハナラナイトイフ條件ガ  
 一ツレテナルニトスル。

(4.1) 即  $1 - L(\theta) \leq \alpha \quad (\theta \leq \theta_0)$

(4.2)  $L(\theta) \leq \beta \quad (\theta \geq \theta_1)$  ナリトスル。

今  $\theta_0, \theta_1, \alpha, \beta$ ニ対シテ(4.1) (4.2)ニ満足スル式ヲ *admissible*  
 ナ抽出方式ト呼バウ。

コニ  $\theta_0, \theta_1, \alpha, \beta$  (ハ定) 察) 問題ノ解答カウガナラシテ常ニナリ。

以下 *admissible* ナ抽出方式ノヲ考ヘル。一般ニ  $\theta$  ノバツテニ対シテ  $A$   
 $SN$ カ一ツノ値カ出ルニ *admissible* ナ方式ノ  $ASN$ カ一ツノ値ニナリ  
 ナイ (*uniformly best*) ナ *admissible* ナ抽出方式ヲ定メヌ  
 ハ不可能ナリ。(〔1〕参照)

依ツテ特ニ  $\theta = \theta_0$  及  $\theta = \theta_1$ ニ對シテ  $E_n(\theta)$ ガ最小ナルヲ *admissible*  
 -like ナ抽出方式ヲ考ヘウ。

是ガ *bold*ニ依ツテ考ヘラシ *sequential probability ratio*  
*sampling plan* (尤度比ニ依ル逐次抽出方式) ナリ。

是尤度比ニ依ル逐次抽出方式

以下考ヘルノ偶然量  $X$ ハ離散的又ハ絶對連續統十分布函数ヲ有スルニトシ  
 $f(x, \theta)$ ニ密度函数、又ハ確率(離散的ナルトキ)ヲ表ハスニトスル。

逐次ニ抽出セラル標本ヲ  $x_1, x_2, \dots$ ニアラハス。今  $(x_1, x_2, \dots, x_n)$   
 ナル標本ヲ得ル確率ハ、

574

$P_{im} = f(x_i, \theta) \dots f(x_m, \theta)$  のようにする。

$\theta = \theta_1 = \dots$  として  $P_{im}$  の通を  $P_{1,m}$

$\theta = \theta_0 = \dots$  として  $P_{im}$  の通を  $P_{0,m}$  とする。

$\theta_1, \theta_0, \theta, \theta$  が定まればよい。

左変比 = 左変比抽出方式の如く抽出される。通常は定数の常数  $A, B$  に対し

$(0 < B < 1 < A)$

(5.1)  $B < P_{im}/P_{0,m} < A$  ならば、抽出の条件は変比抽出が行われる。

(5.2)  $B \geq P_{im}/P_{0,m}$  ならば、1°が採用される。

(5.3)  $A \leq P_{im}/P_{0,m}$  ならば、2°が採用される。

$\theta =$  定数  $A, B$ 。  $Z(\theta_0) = 1 - \theta$ 、 $Z(\theta) = \theta$  となるように採用される。

実際の計算 = 変比抽出と対数条件上の条件を意図して、

$$Z_4 = \log \frac{f(x_0, \theta_1)}{f(x_0, \theta_0)}$$

(5.4)  $\log B < Z_1 + \dots + Z_m < \log A$  ならば抽出が行われる。

(5.5)  $\log B \geq Z_1 + \dots + Z_m$  ならば、1°が採用される。

(5.6)  $\log A \leq Z_1 + \dots + Z_m$  ならば、2°が採用される。

が採用される。これは一言左変比抽出方式で行う1°、2°の何れに決まれば

抽出の無限に経過する0となることに注意する。(小川氏の論文を参照してください)

定数  $A, B$  が近似的に定まらなければならない。

厳密な理論は後述の(1)を参照してください。

之ナルニ場ヲ採ルトイフ判決ニアイルヤウナ標本  $(x_1, \dots, x_m) =$

親行ハ (5.3) カラ常ニ

$$(5.7) P_{1,m} \geq AP_{0,m}$$

故ニ  $\theta_1$  値ニ對シテ之ナルニ場ヲ採ル確率ハ  $1 - \alpha(\theta_1) = 1 - \beta = P_{1,m}$

又  $P_{0,m} = \alpha(\theta_0) = \alpha$  ナリ

(5.7) (1-β) ≥ Aα ナリ得ル。

即チ A,  $\frac{1+\beta}{\alpha}$  ナリ上界トシテ有ル事

同様ニ B,  $\frac{\beta}{1-\alpha}$  ナリ下界トシテ有ル事カナル。

若シテ  $f(x, \theta_1)$  カチ  $f(x, \theta_0) =$  近シキハ  $P_{1,m}/P_{0,m}$  ハ變ニ一ツノ標本ヲ過カスル事ニ依ツテタイミ差ヲ示サシテトシテハナラズ。

依ツテ決断シテ最終ニ至ル  $P_{1,m}/P_{0,m}$  値ハ  $\theta_1$  及  $\theta_0$  差カチカ越ニテトシテヨイ。

$$\從ガツテ A, B, 及チ  $(1-\beta)/\alpha \cdot \frac{\beta}{(1-\alpha)} = \frac{\beta}{\alpha}$  ナリ得ル。$$

### 6. 右邊比ニ依ル抽出方式ノ有効性

(1) 於テ次ノ定理ガ證明サレタル。

$\alpha(\theta_0) = 1 - \alpha, \alpha(\theta_1) = \beta$  成ニセタル注意中抽出方式ニ於テ (admissible)

$$(6.1) E_{\theta_0}(n) \geq \frac{1}{E_0(z)} \left[ (1-\alpha) \log \frac{\beta}{1-\alpha} + \alpha \log \frac{1-\beta}{\alpha} \right]$$

$$(6.2) E_{\theta_1}(n) \geq \frac{1}{E_1(z)} \left[ \beta \log \frac{\beta}{1-\alpha} + (1-\beta) \log \frac{1-\beta}{\alpha} \right]$$

コニ  $z = \log \frac{f(x, \theta_1)}{f(x, \theta_0)}$   $E_0(z)$  及  $E_1(z)$  及チ  $\theta = \theta_0, \theta = \theta_1$  ナリ



ナル平均値ヲ計ル。

今尤度比=原ノ抽出方式=及、抽出何数ヲ知ル。Nヲ以テ  
 与テナル整数トシテ、Nナル確率分布ヲ得ル種小ナルニ付スル。  
 故=今、 $n < N$ トシテ行ハス。

$$(6.3) \quad Z_1 + \dots + Z_n + Z_{n+1} + \dots + Z_N = (Z_1 + \dots + Z_n) + (Z_{n+1} + \dots + Z_N)$$

両邊平均値ヲ計リ。

$$(6.4) \quad NE(Z) = E(Z_1 + \dots + Z_n) + E(Z_{n+1} + \dots + Z_N)$$

今、 $n > n$ ナル $n$ =対テハ、 $Z_i$ ハ確率変数トシテ独立ナル故、

$$E(Z_{n+1} + \dots + Z_N) = NE(Z) - E(n)E(Z)$$

故=

$$(6.5) \quad E(n) = \frac{E(Z_1 + \dots + Z_n)}{E(Z)}$$

$X$ ノ密度函数ヲ $f(x, \theta)$ トシテ、 $E(n) = E_0(n)$ 。今、 $P_{\theta_0}^{n, n}$ トシテ  
 又ハ $B$ ヲ超テ差ヲ無視スルトハ、確率変数 $Z_1 + \dots + Z_n$ ハ $\log$   
 $B$ ヲ夫々 $1 - L(\theta)$ 及 $L(\theta)$ ナル確率ヲ取ル。

故=

$$E(Z_1 + \dots + Z_n) \sim L(\theta) \log B + (1 - L(\theta)) \log A$$

故

$$(6.6) \quad E_0(n) \sim \frac{L(\theta) \log B + (1 - L(\theta)) \log A}{E_0(Z)}$$

$L(\theta)$ ,  $1 - L(\theta)$  = 夫々  $\theta$ ,  $\theta_0$ ヲ代入シテ、変化法トシテ、 $E_0(n)$ ガ

$\theta = \theta_0, \dots, \theta = \theta_0$ ヲ"最小"ナルナリト抽出方式ヲ取ル。

最密ナ展開及ヒ $E_0(n)$ ノ上、下極根=ツイテハ(1)ヲ参照セヨ。

7. 変換 = 確率抽出方式 = オクルOCカー-3.0 誘導法

2. 誘導 OCカー-3.0 の近似式誘導法、概要ヲ示ス。

(7.1)  $\left[ \frac{f(x, \theta_1)}{f(x, \theta_0)} \right]^{h(\theta)}$  ナル変換数ヲ考フル。コレハ  $\theta$  7/12 の  $\theta$  1-  
トスル確率変換数ナリ。

$\int_{-\infty}^{\infty} f(x, \theta) \left[ \frac{f(x, \theta_1)}{f(x, \theta_0)} \right]^{h(\theta)} dx = 1$  ナル条件ヲ定メラレルニトスル。

カ、此  $h(\theta) \neq 0$  小  $f(x, \theta) = 1$  ナル基カコルイ条件、下ニ於テ  $\theta = 1$  対  
ニ行存スル外カ「 $\theta$ 」ニ示サレテナル。

参  $\theta$  1 値 = 対行、上ノ条件カ行。

(7.2)  $f^*(x, \theta) = f(x, \theta) \times \left[ \frac{f(x, \theta_1)}{f(x, \theta_0)} \right]^{h(\theta)}$  ナル変換数ナリ。

(7.3)  $\frac{f(x, \theta)}{f(x, \theta_0)} = \left[ \frac{f(x, \theta_1)}{f(x, \theta_0)} \right]^{h(\theta)}$  ナル外カ行

A, B,  $f(x, \theta_1)$ ,  $f(x, \theta_0)$  = カニスル変換抽出方式  $h(\theta)$

B  $h(\theta)$   $f(x, \theta)$ ,  $f^*(x, \theta)$  = カニスル抽出方式 = カニスル外カ行ニ示  
ル。

然ルニ  $P_{\text{min}} / P_{\text{max}}$  カ A, B 7 超行ノ差ヲ無視スル、近似的 =

$$(7.4) \quad A^{h(\theta)} = \frac{1-B'}{q}$$

$$(7.5) \quad B^{h(\theta)} = \frac{B'}{1-q} \quad \text{ナリ。$$

2. =  $q$  小  $x$  確率密度  $f(x, \theta)$  小  $\theta$  7 対行  $\theta$  力採用サレル確率ヲ示スニト  
ス。

上式ヨリ

$$q' = \frac{1 - B^{h(\theta)}}{A^{h(\theta)} - B^{h(\theta)}} \quad q' = 1 - L(\theta) \text{ ナリ。}$$

$$L(\theta) = \frac{A^{\sum x_i} B^{n-\sum x_i}}{A^{k_0} B^{n-k_0}}$$

∴  $L(\theta)$  は似可なり。

8. 例題 7.

工業製品の欠陥検査を行う。欠陥品を  $\theta$  確率で検出する。母集団  $\theta = \theta_0$  と  $\theta = \theta_1$  の場合、検出率  $\beta$  と  $\alpha$  を定め、 $\theta = \theta_0$  のとき  $\beta = \beta_0$  とし、 $\theta = \theta_1$  のとき  $\beta = \beta_1$  とする。このとき  $\beta_0 < \beta_1$  とする。

今  $\theta = \theta_0$  とし、 $\theta = \theta_1$  のとき  $\beta = \beta_0$  とし、 $\theta = \theta_0$  のとき  $\beta = \beta_1$  とする。

また  $\theta = \theta_1$  のとき  $\beta = \beta_0$  とし、 $\theta = \theta_0$  のとき  $\beta = \beta_1$  とする。

上記の条件を満たす最適な抽出方式は、 $\theta = \theta_0$  のとき  $\beta = \beta_0$  とし、 $\theta = \theta_1$  のとき  $\beta = \beta_1$  とする抽出方式であることが知られる。

$d_m$  は最初  $m$  回の検査で  $\theta = \theta_0$  の製品が  $m$  個あると仮定する。

$$P_{1,m} = \theta_1^{d_m} (1 - \theta_1)^{m - d_m} \quad (\theta = \theta_1)$$

$$P_{0,m} = \theta_0^{d_m} (1 - \theta_0)^{m - d_m} \quad (\theta = \theta_0)$$

採つて抽出方式は

$$(8.2) \quad \frac{P_{1,m}}{P_{0,m}} < \frac{1-\beta}{\beta} \quad \text{採つて抽出方式とする。}$$

$$(8.3) \quad \frac{P_{1,m}}{P_{0,m}} \geq \frac{\beta}{1-\beta} \quad \text{採らぬ抽出方式とする。}$$

計算 = 採つて抽出方式の期待値を計算する。

$$A_m = \frac{\log \frac{\beta}{1-\beta}}{\log \frac{\theta_1}{\theta_0} - \log \frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}} + m \frac{\log \frac{1-\theta_0}{1-\theta_1}}{\log \frac{\theta_1}{\theta_0} - \log \frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}} \quad (\text{acceptance number})$$

$$R_m = \frac{\log \frac{1-\beta}{\beta}}{\log \frac{\theta_1}{\theta_0} - \log \frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}} + m \frac{\log \frac{1-\theta_0}{1-\theta_1}}{\log \frac{\theta_1}{\theta_0} - \log \frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}} \quad (\text{rejection number})$$

トナト

式ハ

(8.5)  $A_m < d_m < R_m$  ナルトナト 検査ヲ要ス

(8.6)  $d_m \leq A_m$  ナルトナト 合格

(8.7)  $d_m \geq R_m$  ナルトナト 不合格

ト書道サレル。

$d_m = A_m, R_m$  ハ検査前ニ計算シテケバヨイ。又  $A_m, R_m$  ガ整数ナリサルナト、 $A_m$  ヲ小ナル。又  $R_m$  ヲ大ナル整数中一番近イニ

トスル。

9. 数値例

今  $\theta_0 = .10$   $\theta_1 = .30$   $\alpha = .05$   $\beta = .03$   $t_{.025} = 2.018$

検査個数	$A_m$	不良同数	検査ハ終ル	不合格	$R_m$
1		0			
2		0			
3		1			
4		1			
5		1			4
6		1			4
7		1			5
8		1			5
9		2			5
10		2			5
11		3			5
12		4			6
13		4			6
14	0	5			6
15	0	5			6
16	0	5			6
17	0	5			7

580

検査回数	$A_{in}$	不良品数	$R_{in}$
18	1	1	1
19	1	1	1
20	1	0	1
21	1	1	1
22	1	1	1
23	1	1	1
24	1	1	1
25	2	1	2
26	2	1	2
27	2	1	2
28	2	1	2
29	2	1	2
30	3	1	3
31	3	1	3
32	3	1	3
33	3	1	3
34	3	1	3
35	3	1	3
36	4	1	4
37	4	1	4
38	4	1	4
39	4	1	4
40	4	1	4

新方式の0.0カ-3%の不良率

$$L(\theta) = \frac{A^{k(\theta)} - 1}{A^{k(\theta)} - B^{k(\theta)}} = \frac{\left(\frac{1-\beta}{\alpha}\right)^{k(\theta)} - 1}{\left(\frac{1-\beta}{\alpha}\right)^{k(\theta)} - \frac{3}{1-\alpha}} \cdot k(\theta)$$

平均不良率は、 $(\theta = 0)$  の場合の合計不良率を示す

不良品 = 対して  $x=1$ 、良品 = 対して  $x=0$  の結果

$$f(x, \theta) = \theta \quad (x=1)$$

$$= 1-\theta \quad (x=0)$$

検定

$$\sum_{x=0,1} f(x, \theta) \left[ \frac{f(x, \theta)}{f(x, \theta_0)} \right]^{k(\theta)} = 1 \quad \text{となること}$$

$$(8.10) \quad \theta \left(\frac{\theta_1}{\theta_0}\right)^{L(\theta)} + (1-\theta) \left(\frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}\right)^{L(\theta)} = 1$$

これを解くために  $\theta$  を未知数として、

$$(8.11) \quad \theta = \frac{1 - \left(\frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}\right)^{L(\theta)}}{\left(\frac{\theta_1}{\theta_0}\right)^{L(\theta)} - \left(\frac{1-\theta_1}{1-\theta_0}\right)^{L(\theta)}}$$

より、この関数は  $\theta$  の連続関数である。また、 $\theta = 0$  のとき  $L(\theta) = 0$  であるから、 $\theta = 0$  のとき  $L(\theta) = 0$  である。したがって、この関数は  $\theta = 0$  のとき  $L(\theta) = 0$  である。

この式を ASN の近似式として

$$E_0(n) \sim \frac{L(\theta) \log \frac{\theta}{1-\theta} + (1-L(\theta)) \log \frac{1-\theta}{\theta}}{E_0(z)}$$

$$(z = \log \frac{f(x, \theta)}{f(x, \theta_0)} \text{ であるとき } E_0(z) \text{ は } z \text{ の平均値})$$

$f(x, \theta)$  は  $x=1$  のとき  $\theta$ 、 $x=0$  のとき  $1-\theta$  である。したがって  $z = \log \frac{\theta}{1-\theta}$  である。

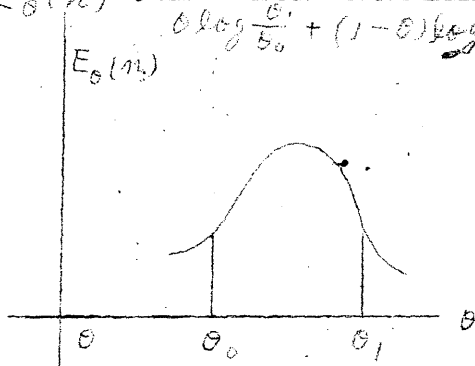
確率  $\theta$  のとき  $(x=1 \text{ であるとき } z = \log \frac{\theta}{1-\theta} \text{ である})$

$\log \frac{1-\theta}{\theta}$  の確率  $1-\theta$  のとき  $(x=0 \text{ であるとき } z = \log \frac{1-\theta}{\theta} \text{ である})$

より、

$$E_0(z) = \theta \log \frac{\theta}{1-\theta} + (1-\theta) \log \frac{1-\theta}{\theta}$$

$$E_0(n) \sim \frac{L(\theta) \log \frac{\theta}{1-\theta} + (1-L(\theta)) \log \frac{1-\theta}{\theta}}{\theta \log \frac{\theta}{1-\theta} + (1-\theta) \log \frac{1-\theta}{\theta}}$$



9. 例題5

A, Bナル二ツ生産方法ノ間ニ優劣決定スルニ各方法ノ生産力ニ  
 各ノ仕切ニ於ケル良品ノ率ヲ夫々  $P_A, P_B, P_B, P_A$  ス。

方法Aノ方法Bニ対スル優劣ヲ計ル測度トシテ、

$$u = \frac{k_A}{k_B} \quad (k_A = \frac{P_A}{1-P_A}, k_B = \frac{P_B}{1-P_B}) \text{ ノ値トシ、}$$

更ニ  $u \geq u_0$  ( $> u_0$ ) ナル  $u_0$ ニ対シテBヲ良品生産率ハBヨリ大ナラズ

又  $u \leq u_0$  ナル  $u$ ニ対シテAヲ良品生産率ハAヨリ大ナラズ要求サレ  
 スル。

良品=ハ1, 不良品=ハ0ヲ對應セテ、各母集団別ノ確率標本:

但  $(a, b)$  ヲ以テ一ツ標本トスル。此ル時  $(a, b)$  ハ  $(0, 1), (1, 0), (0, 0), (1, 1)$  ノ何レカ値ヲトル。

以下  $(a, b)$  が  $(0, 1)$  又ハ  $(1, 0)$  ナル値ナル場合ニテ  $\theta$  ノ値ト  
 スル。

$(a, b)$  が  $(0, 1)$  又ハ  $(1, 0)$  ナラザルトイフ條件下ニ於テ  $(a, b)$

が  $(0, 1)$  ナル確率ハ

$$\theta = \frac{(1-P_A) P_B}{P_A(1-P_B) + P_B(1-P_A)}$$

又條件下ニ  $P_2\{(a, b) \neq (1, 0)\} = 1 - \theta = \frac{(1-P_B) P_A}{P_A(1-P_B) + P_B(1-P_A)}$

$u$  = 観行速ガラシキ良品生産率ヲ指シカナルト、

$$\theta = \frac{u}{1-u} \text{ ナリ}$$

$\leq 0_0 = \frac{u_0}{1-u_0}$  ナル  $\theta$  対シ A ナル 危險率ハ  $\alpha$  ナリ ナラズ。

$\leq 0_1 = \frac{u_1}{1-u_1}$  ナル  $\theta$  対シ B ナル 危險率ハ  $\beta$  ナリ ナラズ。

ナル。

標本中ノ組合セ  $(0,1), (1,0)$  ノ数ヲ  $t, (0,1)$  ナル 組合セノ数ヲ  $t_2$

ナリ 前例ニシテ  $m, n$  ナリ  $t, d$  ナリ  $t_2$  ナリ 用フルトキ、

$$A_t = \frac{\log \frac{1-\beta}{1-\alpha}}{\log u_1 - \log u_0} + t \frac{\log \frac{1-u_1}{1-u_0}}{\log u_1 - \log u_0}$$

$$R_t = \frac{\log \frac{1-\beta}{\alpha}}{\log u_1 - \log u_0} + t \frac{\log \frac{1+u_1}{1+u_0}}{\log u_1 - \log u_0}$$

ナルトキ 標本抽出方式ハ

$A_t < t_2 < R_t$  ナルトキ 抽出セツツツケル

$t_2 \leq A_t$  ナルトキ 抽出セツツツケル

$R_t \leq t_2$  ナルトキ A ナル 抽出セツツツケル



# 教題別

$\mu_0 = 1.0, \mu_1 = 0, \sigma = .03, \beta = .10$

標本抽出数	$(0,1), (1,0)$ 抽れ本	$t_1$	$t_2$	$R_{t_1}$
1	(0,1)	1	1	
2	(0,1)	1	2	
3	(1,0)	1	2	
4	(1,0)	1	2	
5	(1,0)	0	2	
6	(0,1)	1	3	
7	(1,0)	1	3	
8	(0,1)	2	4	
9	(0,1)	3	5	
10	(1,0)	3	5	
11	(1,1)	4	6	
12	(0,1)	5	7	
13	(0,1)	5	8	13
14	(1,0)	6	8	14
15	(1,0)	7	8	14
16	(0,1)	7	9	15
17	(1,0)	8	9	16
18	(1,0)	9	9	16
19		9		17
20		10		18
21		11		18
22		11		19
23		12		20
24		13		20
25		13		21
26		14		22
27		15		22
28		15		23
29		16		24

18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29

例3

10. 母集団分布が正規分布のとき.

(10.1)  $f(x, \theta) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}\sigma} e^{-1/(2\sigma^2)(x-\theta)^2}$   $\theta \in \mathcal{N}_0$

(10.2)  $P_{1,m} = \frac{1}{(2\pi)^{\frac{m}{2}} \sigma^m} e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_1)^2}$

(10.3)  $P_{0,m} = \frac{1}{(2\pi)^{\frac{m}{2}} \sigma^m} e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_0)^2}$  +ル故

尤度比 = 尤度抽出方式ハ

(10.4)  $B < \frac{e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_1)^2}}{e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_0)^2}} < A$  +ル時ハ抽出セツツナル

(10.5)  $\frac{e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_1)^2}}{e^{-\frac{1}{2\sigma^2} \sum_{i=1}^m (x_i - \theta_0)^2}} \leq B$  +ルトキハ合格スル

(10.6)  $\geq A$  +ルトキハ不合格スル

A, B 値 = 近似値  $(1-\beta)/\alpha$  及  $\beta/(1-\alpha)$  ヲ代入シテ, 尤度比

ヲ引算シテ, 上ノ式ハ

(10.7)  $\frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{\beta}{1-\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2} < \sum_{i=1}^m x_i < \frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{1-\beta}{\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2}$

+ルトキハ抽出セツツナル。

10.8)  $\sum_{i=1}^m x_i \leq \frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{\beta}{1-\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2}$  +ルトキハ合格

10.9)  $\sum_{i=1}^m x_i \geq \frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{1-\beta}{\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2}$  +ルトキハ不合格

+ル。

$A_m = \frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{\beta}{1-\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2}$

$R_m = \frac{\sigma^2}{\theta_1 - \theta_0} \log \frac{1-\beta}{\alpha} + m \frac{\theta_0 + \theta_1}{2}$  +ルトキハ抽出セツツナル

586

行ハル。

以上引用論文

- (1) A. Wald "Sequential test of Statistical hypothesis.  
Annals of Math Stat. 1945
- (2) A. Wald. "On the Cumulative Sum of Random  
Variables"  
Annals of Math Stat. 1944

数值列

$\theta_0 = 135, \theta_1 = 150, \alpha = .01, \beta = .03$

抽选回数	$A_m$	標本値 $X_q$	$\sum X_q$ 標本値和	$R_m$
1	✓	151	151	334
2	139	144	295	476
3	281	121	416	619
4	424	137	553	961
5	566	138	691	904
6	709	136	827	1046
7	851	155	982	1189
8	994	160	1142	1531
9	1136	144	1286	1474
10	1279	145	1431	1616
11	1421	130	1561	1759
12	1564	120	1681	1901
13	1706	104	1785	2044
14	1849	140	1925	2186
15	1991	125	2050	2329
16	2132	106	2156	2471
17	2276	145	2301	2614
18	2419	123	2424	2756
19	2561	138	2562	2899
20	2704	108	2670	3041
21	2846			4184
22	2989			4326
23	3131			4409
24	3274			4611
25	3416			4754
26	3559			4896
27	3702			4039
28	3844			4187
29	3986			4324
30	4129			4466
31	4271			4609
32	4414			4751
33	4556			4894
34	4699			5036
35	4841			5179

$m = 207$  合格判定値

(1547, 1, 31)